

あの三週間

「よし子さん。今日はよし子さんとは話さないことに決めたから。ひろ子さんもこずえさんもみえ子さんもいっしょよ。」

「だって、よし子さんは勝手だもの。何でも自分で決めて、それをいやがると、すごい顔でにらんだりするでしょ。」

横にいたひろ子さんがこう言うよし子さんはうつむいてしまいました。

昨日まで、仲良くしていたよし子さんのしおれた顔を見て、私は少し「かわいそうだな。」と思いました。

でも、何でも勝手に決めて、時には仲間外れだつてするよし子さんに反省してもらうにはこれしかないと思つたのです。

そこで、一日だけ仲間外れにすることにして、よし子さんに反省してもらおうと決めていたのです。

その日一日、よし子さんは元気がありませんでした。いつもなら、休み時間には外へ飛び出して行くのにずっと教室に一人でいました。

次の日の朝、私たちは無視をした理由をよし子さんに話してあやまりました。でも、よし子さんはだまっただけでした。

そして、次の日から私への無視が始まったのです。そして、

「みどりさん、はるえさん、みち子さん、遊ぼう。」

よし子さんは、休み時間になるとこうやって遊び仲間を呼び集めます。でも、決して私の名前は呼びません。仲間を集めると、さっさと遊びに出かけてしまうのです。

「私も入れて。」

とよし子さんに言うのですが、先日のことがあつて、なかなか言い出せません。

こんなことが続いているうちに、だんだん私は一人ぼっちになっていきました。よし子さんが、私を無視しようとする女の子たちに言っているらしいのです。

そして、驚いたことに、いつの間にかひろ子さん、こずえさん、みえ子さんもよし子さんの仲間に入っているのです。

私は、毎日一人ぼっちでした。

こんなことが一週間続きました。いつの間にか男子も気づき始めたようで、私の方を見てひそひそ話したりしています。かばってくれるような男の子もいませんでした。

こうしてもう一週間が過ぎました。

私は学校へ行くのがだんだんいやになつてきました。朝になると頭痛がして起きられないのです。

母が、様子がおかしいと何度が話しかけてきましたが、クラスの女の子に無視されていることは話しませんでした。こうして三週間が過ぎました。

私は、クラスにいることもつらくなつてきて、時々保健室で休ませてもらったりしました。そして、とうとうがまんしきれなくなつた私は、となりのクラスにいる幼なじみのみずえさんに、クラスの女の子から無視されていることを話しました。

みずえさんは、私の話を聞くと

「先生に話そう。」

と私を強引に先生のところへ連れていきました。

先生は、私の話を聞くと、さっそくよし子さんたちを呼んで話を聞きました。

よし子さんは、私を無視していたことを先生に話し、本当は仲直りしたかったのだけど、また、自分が無視されるのではないかと心配になつてできなかつたのだと先生に話したそうです。

それから、学級会があつて、よし子さんと私を無視していた女の子たちが私にあやまってくれました。また、放課後に残つて先生や、よし子さんたちと何度も話しました。

こうして、私たちの仲はまた元にもどりました。

でも、無視され続けたあの三週間のことを思い出すと今でも暗い気持ちになります。